

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護実習 I-4, 5		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業担当者 棚橋 恭子	実務経験	病院、介護老人保健施設、准看護師とし従事し 訪問看護ステーション、障害者支援施設、特別養護老人ホームに看護師として従事する。	
授業担当者 阿部 紀男	実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事した。	
授業の回数 1日8時間×7日	時間数(単位数) 56時間(2単位)	配当学年・時期 2年・前後期	(必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>さまざまな生活の場における利用者個々の生活リズムや個性を理解したうえで、ケアの個別性について理解し、利用者・家族とのコミュニケーションを実践し、生活支援技術の確認を行い、他の専門職等との協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士としての役割について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①様々な生活の場における個別ケアを理解することができる。</p> <p>②両者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			

実習 I - 4 (2日間) …… 2年生前期

目的：訪問介護の特性を学び、利用者の居宅生活を継続するための援助方法を学ぶ。

目標：①居宅における利用者、その家族の生活状況・環境について理解する。

②居宅における利用者のニーズと必要なサービスを見学、体験を通して理解する。

③施設におけるさまざまな機関との連携や、社会資源の有効な活用方法について知る。

達成方法・訪問介護実習は、1日の実習を8時間とし、2日間を基本とする。

- ・マンツーマン指導を基本とする。
- ・利用者と職員がどのように信頼関係を築いているか観察し理解する。
- ・利用者、家族に対する接し方や援助方法について指導を受ける。
- ・利用者が主体的に暮らせる介護サービスの選択の援助方法を理解する。

実習 I - 5 (5日間) …… 2年生後期

目的：2年間の集大成とするために、介護福祉士として総合的な学習を進めると同時に、就職しても即戦力として働けるような技術・知識を学ぶ。

目標：①施設の中での役割を理解し、組織の立場を理解しながら業務を行うことができる。

②利用者や施設職員とも、コミュニケーションが十分にとれるように関わる。

③自分自身の専門性を活かし、利用者への支援を総合的に実践する。

④自分自身の課題を克服する。

達成方法・総合実習は、1日の実習を8時間とし、5日間を基本とする。

- ・職員が組織の中で、どのように業務を行っているか理解する。
- ・報告、連絡、相談を確実に実施し、信頼関係を構築する。
- ・今まで学習したことを、応用的に実践し、即戦力となれるような技術を実践する。

[使用テキスト・参考文献]

- ・介護福祉士養成講座
「介護総合演習・介護実習」 中央法規
- ・介護実習指導要綱

[単位認定の方法及び基準]

- ・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
- 1. 考查点(80%)
到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。
- 2. 平常点(20%)
 - ・日々の授業に対する取り組み方、参加態度などを含め評価する。(10%)
 - ・提出課題において、期日を厳守し到達目標に達している点を評価する(10%)。